

区 分	フィールド系科目	担当教員	池本 良教、古関 喜之、崔 博憲			
授業科目	フィールドワーク入門					授業形態
英 訳	Experience of Fieldwork					オムニバス
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 社会に存在するさまざまな問題や課題を的確に読み解き、解決策を導き出すための基本的な手法としてのフィールドワークに取り組むことを通じて、社会学や社会調査に関する基本的な知識や手法を実践的に体験し修得する。						
<b>【授業の到達目標】</b> フィールドワークやボランティアに取り組み、現場における交流や体験を通じて、社会観察や取材・インタビュー、情報・資料収集のための基本的な知識と方法を体験的に習得する。						
<b>【授業の概要】</b> 「グローバル×ローカル」「仕事×生活」の2つの観点で、地域の活性化、多様な人々との共生、新しいビジネストレンド、少子高齢化やワークライフバランスという4つの領域のなかから、3人の担当教員が設定するプログラムにより課題を設定しフィールドワークに取り組む体験的な実習である。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> これまでの社会科見学や社会体験、社会調査、ボランティア活動などの経験と成果をふまえて、みずから課題を設定し、グループで討議し協働でフィールドワークに取り組む準備をし、実習後はテーマごとに成果をまとめ、報告会の準備を進めておくことが必要である。						
<b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス 第2回～第5回 テーマⅠ 5月(崔) 第6回～第9回 テーマⅡ 6月(古関) 第10回～第13回 テーマⅢ 7月(池本) 第14回 まとめ 第15回 報告会  第2回～第13回の実習テーマⅠ～Ⅲ、第14回、第15回の内容と日程の詳細は第1回のガイダンスで案内する。						
<b>【テキスト】</b> 使用しないが、ガイダンスおよびテーマごとに適宜資料を配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 平常点で評価するが、①毎回の授業に臨む態度(フィールドワークでの準備状況、熱意、礼儀など)、②各テーマのレポートと報告会での報告内容などで総合的に評価する。						
<b>【履修要件等】</b> とくにない。						

区 分	フィールド系科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	社会調査論 I					授業形態
英 訳	Social Research I					単独
配当年次	2年次 前期	必選別	必修	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象などの社会の実態を一連の手法によって把握するための社会調査の意義と諸類型、諸過程に関する基本的事項についての知識と手法を修得する。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項と、資料やデータの収集から分析までの社会調査の諸過程に関する基礎的事項を修得する。						
<b>【授業の概要】</b> 社会調査の意義と諸類型、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項について講義する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 事前に配付する資料に基づいて次回の授業内容を把握し、書籍や新聞、雑誌などを読んだり、日常的に社会調査に関するテレビのニュースなどの番組を見たりして、授業を経て、学修内容をまとめる。						
<b>【授業計画】</b> 第1回 社会調査とは 第2回 社会調査の目的 第3回 社会調査の手法①統計調査と事例調査 第4回 社会調査の手法②質的調査と量的調査 第5回 社会調査の手法③調査票調査とフィールド調査 第6回 社会調査の歴史 第7回 調査倫理 第8回 社会調査の体系 第9回 調査課題の設定と問題意識 第10回 仮説と結論 第11回 発想法 第12回 作図法 第13回 調査の企画と設計 第14回 資料やデータの収集 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 使用しないが、資料を事前に提供する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 各回の課題(レポート提出)(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> とくにない。						

区 分	フィールド系科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	社会統計学					授業形態
英 訳	Social Statistics					単独
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 社会的なデータの分析に必要な統計学の基本を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会調査士の資格獲得のために必要とされるレベルの統計学の知識を修得する。						
<b>【授業の概要】</b> 確率論を基礎に統計的推論の基本を説明する。本科目は社会調査士資格の関連科目である。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 予習：事前に配布された資料を読んで授業の内容をおさえておく 復習：授業で出された練習問題を解く						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 インTRODクシヨN 第 2回 代表値 第 3回 度数分布 第 4回 分散と標準偏差 第 5回 2変数の相関と独立 第 6回 順列・組み合わせ・確率 第 7回 確率分布 第 8回 中間まとめ 第 9回 仮説検定の論理 第10回 区間推定 第11回 平均・比率の差の検定 第12回 クロス表の分析 第13回 分散分析 第14回 回帰分析 第15回 全体のまとめ 期末試験						
<b>【テキスト】</b> 授業で資料を配布する						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの統計学(第2版)』日本評論社 林拓也『社会統計学入門』放送大学教育振興会						
<b>【成績評価の方法等】</b> 中間試験50%、期末試験50%						
<b>【履修要件等】</b> 特になし						

区 分	フィールド系科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	社会調査論Ⅱ					授業形態
英 訳	Social Research II					単独
配当年次	2年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態を一連の作業によって把握する社会調査の設計と実施方法についての知識と手法を修得する。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会調査の設計から、資料やデータの収集、整理、分析、報告までの一連の具体的な方法を修得する。						
<b>【授業の概要】</b> 調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理、報告など、社会調査の知識と手法について講義する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 事前に配付する資料に基づいて次回の授業内容を把握し、書籍や新聞、雑誌などを読んだり、日常的に社会調査に関するテレビのニュースなどの番組を見たりして、授業を経て、学修内容をまとめる。						
<b>【授業計画】</b> 第1回 社会調査の体系と方法 第2回 社会調査の企画 第3回 社会調査の設計 第4回 文献・資料調査 第5回 観察調査と質問調査 第6回 調査票 第7回 個人情報と調査倫理 第8回 実査 第9回 データの入力と集計・分析 第10回 調査結果のとりまとめと公表 第11回 社会調査と携帯端末 第12回 調査事例①世論調査・意識調査・意向調査 第13回 調査事例②地域調査 第14回 調査事例③階層調査 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 使用しないが、資料を事前に提供する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 各回の課題(レポート提出)(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> とくにない。						

区 分	フィールド系科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	社会調査のデータ処理					授業形態
英 訳	Introducing Data Analysis for Social Science					単独
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 社会調査に必要なデータ入力、集計、分析方法の基礎を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会調査実習や卒業研究に際して行われる社会調査のデータを分析できる基本知識と技能を修得する。						
<b>【授業の概要】</b> 統計ソフトを用いながら、社会調査に必要なデータ処理の基本的手順について学ぶ。授業は実習形式で行う。本科目は社会調査士資格の関連科目である。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 予習：事前に配布された資料を読んで授業の内容をおさえておく 復習：授業で出された練習問題を解く						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 インTRODクシヨN 第 2回 統計ソフトの基本操作とデータセットの作成 (1) 第 3回 統計ソフトの基本操作とデータセットの作成 (2) 第 4回 統計ソフトの基本操作とデータセットの作成 (3) 第 5回 単純集計と基本統計量 (1) 第 6回 単純集計と基本統計量 (2) 第 7回 単純集計と基本統計量 (3) 第 8回 クロス表の分析 (1) 第 9回 クロス表の分析 (2) 第10回 クロス表の分析 (3) 第11回 分散分析 (1) 第12回 分散分析 (2) 第13回 回帰分析 (1) 第14回 回帰分析 (2) 第15回 全体のまとめ						
<b>【テキスト】</b> 授業で資料を配布する						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 石村貞夫、石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』（東京図書）						
<b>【成績評価の方法等】</b> 各授業の課題 (30%)、学期末のレポート (70%)						
<b>【履修要件等】</b> 2年次前期の「社会統計学」を履修していることが望ましい						

区 分	フィールド系科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	海外研修A					授業形態
英 訳	Overseas Training Program A					単独
配当年次	2年次	通年	必選別	選択	単位数	4単位
<b>【授業の目的】</b> 海外研修を通じて、台湾についての理解を深めるとともに、さまざまな体験を通してグローバル化する現代において必須となる異文化を理解する力、ならびに中国語によるコミュニケーション能力を高める。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 台湾の歴史・社会・文化などについて理解が深まる。 2. 海外研修を通じて、異文化の人との交流の大切さや、異文化交流をするうえで重要なことを感じ取る。 3. 台湾の学生と交流することで、多様な価値観や外からみた日本について再認識する。						
<b>【授業の概要】</b> 夏季休暇期間に台湾で海外研修を実施する。それに向けて、前期授業では台湾の歴史・社会・文化などについて事前学習を行う。また研修後は、その経験を振り返りレポートにまとめる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 配布資料をまとめ、指示されたことは必ず期限までに行うこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2・3回 台湾の自然環境①② 第 4・5回 台湾の歴史①② 第 6・7回 日本統治時代①② 第 8回 台湾原住民 第 9回 台湾の食文化 第 10～13回 中国語学習①②③④ 第 14・15回 海外研修準備①② 第 16～26回 海外研修 第 27回 海外研修を終えて 第 28～30回 レポート作成						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは適配する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 事前学習の取り組み (30%)、台湾研修での取り組み (40%)、帰国後のレポート提出 (30%) で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 事前学習および台湾での研修に参加すること。台湾で約 10 日間の研修を予定しており、研修内容と費用の詳細については、第 1 回目のガイダンスで説明する。費用は 15 万円程度になるであろう。						

区 分	フィールド系科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	海外研修B					授業形態
英 訳	Overseas Training Program B					単独
配当年次	2年次	通年	必選別	選択	単位数	4単位
<b>【授業の目的】</b> タイ社会のさまざまな人びとと出会い、現地の暮らしを知るという経験を通じて、グローバル化する現代を生きるためのコミュニケーション能力を高める。						
<b>【授業の到達目標】</b> 東南アジアやタイ社会の複雑さや多様性、日本とのかかわりなどを具体的に理解し、異文化や他者とのコミュニケーション能力を高める。						
<b>【授業の概要】</b> 夏季休暇期間中にタイでの海外研修を実施する。それに向けて、前期授業ではタイ社会について事前学習を行う。また研修後の後期授業では、その経験を振り返り、レポートにまとめる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 配布資料をまとめ、指示されたことは期限までに必ず行うこと。 タイや東南アジアに関するニュースや情報を新聞や雑誌・文献を通して幅広く得ておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 異文化体験とは 第 3・4回 タイ社会について①② 第 5・6回 タイ社会と日本①② 第 7・8回 タイの山地民について①② 第 9～12回 タイ語学習①②③④ 第 13～15回 海外研修準備①②③ 第 16～25回 タイ海外研修 第 26・27回 海外研修を終えて 第 28・29回 レポート作成 第 30回 まとめ・報告						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 事前学習の取り組み (30%)、タイ海外研修での取り組み (40%)、帰国後のレポート提出 (30%)。						
<b>【履修要件等】</b> 約10日間の研修を予定しており、費用12～13万円程度になる予定。研修内容と費用の詳細については、第1回目のガイダンスで説明する。						

区 分	フィールド系科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	質的調査法					授業形態
英 訳	Qualitative Research Method					単独
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> さまざまな質的データの収集や分析方法に関する、問題発見から課題設定、仮説立論、仮説検証までの一連の定性的・質的調査の知識と手法を習得する。						
<b>【授業の到達目標】</b> 定性的・質的調査の概要を理解し、フィールドワークによる観察・面接・聞き取り調査、取材、インタビュー、資料収集などによる質的データの収集や、会話分析やドキュメント分析などによる分析方法を習得する。						
<b>【授業の概要】</b> 観察、フィールドワーク、インタビューなどの質的・定性的調査についての企画・設計・計画から調査票の作成、調査の実施、報告までの一連の方法と、ライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等の質的データの分析法などについて、講義と演習・作業を通じて解説する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 日常的にテレビのドキュメンタリーやニュースなどの報道番組の取材やレポートの様子、新聞の記事の書き方などに注視し、授業を経て学修内容をまとめる。						
<b>【授業計画】</b> 第1回 質的調査の概説：質的データの収集・分析方法など 第2回 フィールドワークと質的データの収集：観察調査、取材、既存の報告書や文献、新聞記事などのテキストデータなどの収集 第3回 現状把握と情報共有：BS法やKJ法などによる問題意識の課題化 第4回 問題発見と課題設定：フィールドワーク結果のまとめとテキストデータの内容分析 第5回 資料作成：ワーク・シートなどによる情報整理と仮説立論 第6回 質的データ分析：プレゼンテーション・ソフトによる結果説明と問題・課題の討議 第7回 仮説立論：問題・課題の明確化 第8回 聞き取り調査計画の策定：対象・方法の明確化と関係者・関係機関への協力依頼など 第9回 調査票作成：聞き取り調査のための調査票作成 第10回 予備的調査の実施：関係者・関係機関に対する聞き取り調査 第11回 聞き取り調査の実施：面接・聞き取り調査の実施 第12回 調査結果のとりまとめ：聞き取り内容のデータ化と会話分析 第13回 報告書・報告資料の作成：質的調査の報告書・資料の作成 第14回 報告：プレゼンテーション・ソフトによる報告 第15回 報告結果の修正：報告結果の修正と報告書の提出						
<b>【テキスト】</b> 使用しないが、資料を事前に提供する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 毎回の課題(40%)、調査票・報告書の内容(60%)で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 社会調査論Ⅰ・Ⅱを修得したか履修中であることが望ましい。						



区 分	フィールド系科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	社会調査実習					授業形態
英 訳	Social Research Practice					単独
配当年次	3年次	前後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 本授業の目的は、社会調査の企画立案・実施・分析・報告書の作成等を体験し、カリキュラムポリシーにある「地域が抱える課題やその解決策を提示することができる力」を身につけるための基礎を修得することにある。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会調査の実施に必要な当該分野に関わる基礎知識の習得から報告書の作成に至る過程を体験し、理解することを目標とする。						
<b>【授業の概要】</b> 本授業では、特に集落営農または沿海部傾斜地農業を対象として、まず、学生に対し当該分野の学習、聞き取り調査や面接などの社会調査計画の企画立案を行わせる。さらに、実際に社会調査を実施させ、データの分析と実態把握等を含む報告書の作成を指導する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 調査対象についての基礎知識獲得のための講義については、受講する前にテキストを事前に通読することが求められる。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 社会調査実習について総論的に概説する。 第 2 回～第 10 回 調査対象である農村の集落営農または沿海部傾斜地農業の基礎について概説する。 第 11 回 調査の目的や手法、スケジュール等について説明し、集団的に検討を行う。 第 12 回 聞き取り調査の調査票の原案の説明を行い、集団的に検討を行う。 第 13 回 調査票を用いての聞き取り調査を実施するうえで必要なトレーニングを行う。 第 14 回～第 17 回 前回到引き続き、調査票を用いての聞き取り調査を実施するうえで必要なトレーニングを行う。 第 18 回～第 27 回 農村である現地で聞き取り調査を実施する。 第 28 回～第 30 回 調査データの集計・分析を行い、報告書を作成する。						
<b>【テキスト】</b> 使用しないが、資料を事前に提供する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜、紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 受講態度と報告書を検討し、総合的に評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 社会調査および農村に関心を持っていることが履修の最低要件である。						